

【教科名】基礎化学工学		【学年・学科】3年・物質化学工学科	
Fundamental Chemical Engineering【単位数・期間】(必修)2単位・通年(週2時間)で合計60時間			
【担当教員】前田 良輔		【教員室】7号館2階	
【TEL】964-7319		【e-mail】maeda@kct.ac.jp	
【授業目的と概要】 化学工学は、様々な工業製品を生産するためのプロセスを構築する実践的な学問であり、多くの装置や操作が関与する。そこで、化学工学の基礎となる単位換算と次元解析、物質収支、熱収支、気体の状態方程式、熱化学、燃焼計算等の理論を学び、プロセス設計、最適化、経済性評価、運転管理の場面に応用できる基礎的な能力を養成する。			
【授業の進め方及び履修上の注意】(準備する道具や前提となる知識) 教科書に沿って授業を進める。理論式などは誘導し、それに基づいた例題や演習問題を解くことによって理解を深める。後期後半は基本的なものから応用に至る総合的な演習問題を解きながら知識の定着をめざす。物理化学と数学の基礎事項が必要になり、関数電卓の取り扱いを初め、数字の正確で迅速な処理能力が要求される。			
授 業 項 目	内 容		時間
【前期】			
1. 単位換算と次元解析	SI 単位系を中心に化学工学で用いられている様々な単位系間の換算と 定理に基づく次元解析を理解する。		6
2. 気体の状態方程式	理想気体の状態方程式, van der Waals の状態方程式, z 線図などのいくつかの方法で気体の体積や物質量を算出する。		6
3. 物質収支	混合, 乾燥, 蒸発, 蒸留, 吸収などの物理操作や化学反応を伴う系における物質の量的関係を理解する。		10
4. 熱収支	熱化学を基礎とし, 熱交換器などで行われるエネルギー(主として熱)の量的関係を理解する。		8

期末試験			
【後期】			
5. 燃焼計算	様々な可燃物と空気などの混合物の燃焼計算, 燃焼ガス組成, 理論空気量などを算出する。		10
6. 総合演習	前期からの全単元について幅広い難易度の演習問題を実施する。		20

期末試験			
【達成目標】		【教科書】	
【前期】		新版 化学工学 - 解説と演習 -	
・化学工学の基礎である単位の換算, 次元解析が自在にでき, いくつかの気体の状態方程式のもつ意味を理解し取り扱うことができる		化学工学会編 積書店	
・物理操作と反応における物質収支式や熱収支式を立てることができ, 量的な関係を明らかにすることができる。		【参考書】	
【後期】		現代化学工学	
・熱化学に基づいて, 気体・液体・固体の様々な燃料の燃焼計算を行い, 燃焼ガス組成や理論燃焼温度を算出することができる。		橋本ほか編 産業図書	
		入門 化学工学 改訂版	
		小島ほか著 培風館	
北九州高専目標	(A)		
JABEE 基準 1(1)			
成績 評価	【評価基準】	【オフィスアワ - 】	
	化学工学の基礎事項について, 理論を理解した上で迅速で正確な計算ができること。	放課後(木曜)	
【評価方法】	放課後(金曜)		
	中間・期末試験 90%, 演習・レポート 10%		